

JEITA鉛フリー化活動成果報告会2010

■主催：実装技術標準化専門委員会

■担当部署：知的基盤部（標準G）

■参加者数：約150名

概要

当協会実装技術標準化専門委員会では、1997年から、鉛フリーはんだ実用化に向けたプロジェクトを設置し、はんだのみならず実装に関わる技術の鉛フリー化の実用化に取り組んでいます。

また鉛フリー化を達成する上での障害となる技術的課題の多くは国家プロジェクトとして取り組み、課題解決策を策定するとともに解決策の普及を図るために国際標準化を推進しております。

これらの活動成果に関しては、毎年報告会を開催し、

広く周知しております。

今年もこの一年間の活動成果を『JEITA鉛フリー化活動成果報告会2010』と題して、大きく3つのテーマで発表させていただきました。

1. 電子実装の信頼性向上のためのウィスカ防止技術の開発
2. 鉛フリーはんだを用いたフローはんだ付け機器の損傷抑制技術の評価試験方法の標準化
3. はんだ材料のハロゲンフリーの定義化

プログラム

○ET-7411「極小表面実装部品のはんだ付け性試験方法（平衡法）」の制定について

大島 寛 氏（元 ニチコン(株)）

○ET-7407A「CSP・BGAパッケージの実装状態での環境及び耐久性試験方法」改正の特徴

山本 剛 氏（富士通アドバンステクノロジー(株)）

○鉛フリーはんだの熱疲労寿命予測に対するCoffin-Manson式の適用について

芝浦工業大学 准教授 荻谷義治 氏

○ET-7305「錫ウィスカ抑制鉛フリー材料選定ガイドライン」制定について

西村朝雄 氏（(株)実装パートナーズ）

○METIプロジェクト

「鉛フリーはんだを用いたフローはんだ付け機器の損傷抑制技術の評価試験方法標準化」の取り組みについて

芹沢弘二 氏（(株)日立製作所）

○ステンレス鋼表面処理材の健全性評価と損傷挙動評価

群馬大学 教授 荘司郁夫 氏

○フロー槽損傷のシステムの抑制と損傷の定量評価方法の開発

宮崎 誠 氏（長野沖電気(株)）

○鉛フリーはんだによるステンレス鋼損傷試験方法のラウンドロビンテスト結果について

荒金秀幸 氏（ソニー(株)）

○鉛フリーはんだによるステンレス鋼損傷への微細組織の影響

芝浦工業大学 准教授 荻谷義治 氏

○ET-7304A「ハロゲンフリーはんだ材料の定義」改正について

鶴田加一 氏（千住金属工業(株)）

○Sn-Bi系はんだ接合の特徴と取り扱い上の注意点

下川英恵 氏（(株)日立製作所）

○パネルディスカッション「第2世代リフロー用鉛フリーソルダーペースト標準化への期待」

パネラー：芹沢 氏（(株)日立製作所）、富塚 氏（ソニー EMCS(株)）、山部 氏（(株)東芝）、大西 氏（千住金属工業(株)）、盛林 氏（(株)ニホンゲンマ）